

八ヶ岳観光圏整備計画

令和5年度～令和9年度

令和5年3月

山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村

目 次

1 計画の位置づけ等	1
(1) 計画の名称	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画策定年月日	1
(4) 計画対象地区の基本情報	
ア 計画対象地区の現況と特性	1
(ア) 自然特性	1
(イ) 人口、社会・産業特性等	1
(ウ) 歴史、文化特性等	2
(エ) 総合計画等に見る観光の位置づけ	2
イ 地域資源の現況と観光特性	10
(ア) 各交流地区別の特徴	10
(イ) 観光資源・地域資源	12
(ウ) 年中行事・イベント	12
(エ) 宿泊収容力	12
ウ 観光地域づくりを達成するための課題	20
2 基本的事項	23
(1) 観光圏の区域	23
ア 八ヶ岳観光圏の区域	23
イ 設定理由	23
ウ 連絡先	24
(2) 滞在促進地区の区域	25
ア 主たる滞在促進地区	25
イ その他滞在促進地区	25
(3) 観光圏整備事業の実施体制	25
ア 主たる滞在促進地区における実施体制	25
イ 交流地区における実施体制	25
(4) 観光圏整備計画の目標	27
ア 量的目標（観光客数、宿泊客数）	27
イ 質的目標（顧客満足度）	29
(5) 計画期間	30
(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容	30

(7) 地域住民の観光地域づくりに対する意識啓蒙と参加促進を目指すための取組

3	観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針・・・	3 1
(1)	「インバウンド回復戦略」に基づく取り組み・・・	3 2
(2)	「国内交流拡大戦略」に基づく取り組み・・・	3 2
(3)	「高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略」に基づく取り組み・・・	3 3
4	観光圏整備事業の概要・・・	3 5
(1)	宿泊サービスの改善及び向上・・・	3 5
(2)	観光資源を活用したサービスの開発及び提供・・・	3 5
(3)	移動の利便性の向上・・・	3 5
(4)	情報提供の充実強化・・・	3 5
(5)	地域住民が一体となった観光地域づくりの推進・・・	3 5
(6)	その他・・・	3 6
5	協議会に関する資料等・・・	3 7
(1)	協議会名称・・・	3 7
(2)	協議会構成員・・・	3 7
(3)	八ヶ岳観光圏整備推進協議会規約・・・	3 8
6	その他市町村または都道府県が必要と認める事項・・・	4 2

1 計画の位置づけ等

(1) 計画の名称

八ヶ岳観光圏整備計画書

(2) 計画の位置づけ

「八ヶ岳観光圏整備計画」（以下、本計画）とは、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」第4条の規定に即し、山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村が、同法基本方針に基づき、共同して当該区域について観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進を総合的かつ一体的に図るための計画として定めるものである。

本計画は、構成員である山梨県、長野県、北杜市、富士見町、原村が共同で策定するものである。

(3) 計画策定年月日

令和5年3月20日 策定

(4) 計画対象地区の基本情報

ア 計画対象地域の現況と特性

(ア) 自然特性

計画対象地域の八ヶ岳エリアは、山梨県と長野県の県境にそびえる八ヶ岳の南麓に広がる地域で、県境を挟んで東側の山梨県北杜市、西側の長野県富士見町及び原村で構成され、東京からは西北西方向約120kmの距離に位置している。

標高は、低い場所でも約400mあり、八ヶ岳南麓、西麓に農用地や住宅地、約1,400mの高原まで別荘地が広がる。ピークは、北に八ヶ岳の主峰赤岳2,899m、西は南アルプスの甲斐駒ヶ岳2,967m、東は、瑞牆山2,230mと周囲を高い山々に囲まれ、南には甲府盆地越しに富士山を望むことができる。ダイナミックな日本列島の成り立ちを地形から見て取れる特異な地点である。

また、山岳部は南アルプス国立公園、秩父多摩甲斐国立公園、八ヶ岳中信高原国定公園に指定されており、国連機関であるユネスコから「南アルプスユネスコエコパーク」と「甲武信ユネスコエコパーク」、2つの生物圏保存地域（Biosphere Reserve）に登録されている。面積の約7割は森林で、豊富な水資源を活かした水稻栽培や冷涼な気候を生かした高原野菜などの栽培が盛な地域である。

(イ) 人口、社会・産業特性等

3市町村を合わせた総人口は、65,817人。その内訳は、北杜市44,053人、富士見町14,084人、原村7,680人。構成割合は、北杜市66.9%、富士見町

21.4%、原村11.7%となっている。人口減少・少子高齢化は3市町村共通の課題であるが、人口動態からみる圏域の特徴としては、「自然減」の傾向は強いが、相対として「社会増」が人口減少を緩やかにしている。首都圏から2時間程度と近く、八ヶ岳、南アルプスなど日本を代表する山岳景観を有する本エリアは、別荘所有者などの2拠点居住者や移住希望者が多い地域であり、強みを生かした地域づくりが求められている。

産業別の割合をみると、北杜市は、第1次産業14.8%、第2次産業24.9%、第3次産業60.3%。富士見町は、第1次産業13.0%、第2次産業32.0%、第3次産業54.9%。原村は、第1次産業22.4%、第2次産業28.3%、第3次産業49.3%となっている。

就業者数は、北杜市21,374人、富士見町7,360人、原村4,253人となっており、前回の国勢調査よりも減少傾向にある。

農業従事者の高齢化や担い手不足の傾向はあるが、全国比では、新規就農者や農業法人の参入は多いエリアである。製造業、卸売業、飲食・宿泊業の順に割合が高いが、人口減少の影響を受け、いずれの産業も就業者数が減少傾向にある。

※各数値は令和2年国勢調査（山梨県、長野県オープンデータ）から

（ウ） 歴史、文化特性等

八ヶ岳南麓には約5,000年前から縄文文化が栄え、井戸尻遺跡や阿久遺跡、金生遺跡、梅之木遺跡が国指定史跡に指定され、平成30年5月には「星降る中部高地の縄文世界」として、文化庁から日本遺産の認定を受けている。出土品の多くは芸術性が高く、当時の人々も見ていた遺跡からの景色と併せて縄文世界を感じることができる。

戦国時代には、甲斐の武田信玄が信濃攻略のために八ヶ岳南麓をまっすぐに貫く道、「棒道」を作り、現在も北杜市、富士見町、原村に残っている。所々に古い石仏などもあり、古道を歩き、当時と変わらない情景を体感することもできる。

また、甲斐駒ヶ岳、阿弥陀岳、金峰山など、古くからの山岳信仰の歴史も現在に残り、麓の神社や登山道沿いに多くの石仏群が残る。山々が信仰の対象となり、畏敬の念をもって大切にされてきた歴史を感じることができる。

「御柱祭」や「獅子舞」「虎頭の舞」「筒がゆ」といった地域独特の無形の文化や伝承芸能が残っており、多くの地域に残る「御神楽」は、3月下旬から5月にかけて毎週のように、どこかの神社で舞の奉納がされ、桜の時期と併せ、地域ごとに賑わう。

このように、現在は山梨県、長野県と県域による違いがあるが、八ヶ岳観光圏域は遠い昔から歴史、文化の特性としては一つの地域として今日まで続いている。

（エ） 総合計画等に見る観光の位置づけ

計画対象地域の各市町村の総合計画等においては、観光や交流事業が次のように位置づけられている。

a 北杜市

『第3次北杜市総合計画』（令和3～12年度）において、北杜市の将来都市像「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」に基づく、5つの「2030年、地域のありたい姿」の内、「もっと、世界を魅了するまち」に観光が位置づけられている。

5つの「2030年、地域のありたい姿」に対応し、総合計画の実効性を高めるため、先導的な役割を担い、優先的かつ重点的に取り組むプロジェクトとして、「もっと、世界を魅了するまちづくり」を掲げ、個別の施策に取り組むとしている。

具体的な内容及び「基本計画（令和3～7年度）」の記載事項は以下の通りである。

感動を届ける観光のまちづくりの推進
目指す姿 新型コロナウイルス感染症によるニーズ変化に対応し、強みである自然や芸術に加えて、文化・スポーツ・体験コンテンツ・滞在環境などが磨き上げられ、国内外の観光客を魅了する、何度でも訪れたくなる交流都市になっています。
現状と課題 ・本市は、清らかで豊かな水資源や、山岳等の美しい自然景観をはじめ、非常に多くの観光資源を有しています。 ・本市の強みである豊かで美しい自然が維持され、市民生活との調和が図られた持続可能な観光振興を進めていく必要があります。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で国内外の観光客が減少していますが、収束後には入込を回復させ、成長につなげていくことが必要です。 ・当面は、マイクロツーリズムによって誘客を促すとともに、消費額・滞在時間・リピーターなどを増加させるための取組を継続していく必要があります。
取組概要 ①特色ある観光資源の活用 ＜地域観光資源の更なる磨き上げ＞ ・本市が誇る様々な地域観光資源（登山・アウトドア・馬・芸術・文化・農業・古民家等）を磨き上げるとともに、PRを強化し、国内外の観光客の誘客及び滞在時間の延伸、満足度向上につなげます。 ＜環境に配慮した持続可能な観光の推進＞ ・自然環境の保全を推進するとともに、歴史や文化など、それぞれのエリアの特徴を活かした観光施策を展開します。 ・市と水資源の保全活動を積極的に行う企業が連携して取り組む、「世界に誇る『水の山』」のブランド推進プロジェクトを強化します。 ・SDGs等を意識した観光コンテンツ開発を支援します。

・観光客にも、自然環境への負荷低減に向けた行動や地域コミュニティへの配慮などを促します。

＜観光ルネサンスの推進＞

・「清里エリア」「増富エリア」など観光地の再活性化に向けた、戦略検討と新たな価値・創造の取組を支援するとともに、地域や観光関連団体の連携を促進します。

②受入体制の充実

＜ウィズコロナ・ポストコロナに対応した観光地づくり＞

・当面は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、四季を通じた滞在型の観光地づくりやスポーツ、イベント、会議等の開催地として国内・県内観光の需要獲得を推進します。

・新型コロナウイルス感染症によるニーズの変化を捉え、観光誘客のデジタルシフトに対応するとともに、ターゲットと発信内容を見直しながら効果的な発信に努めます。

・新型コロナウイルス感染症の収束後のインバウンド*需要の回復を見越して、多言語での情報発信・情報提供、スタッフの対応力の強化等を促進します。

＜中部横断自動車道等による交流拡大＞

・中部横断自動車道の静岡・山梨間の全線開通によって生じる人の流れの変化を活用し、本市への交流・観光の拡大、産業振興、定住促進につなげるとともに、令和9（2027）年のリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業に向けた活性化の方向性を検討します。

＜受入体制の整備＞

・観光客が快適に滞在し、リピート率の高い観光地をつくるため、二次交通の充実をはじめとする付帯的なサービスの水準を高めるため観光MaaSの導入を推進します。

・登山者の環境保全、安全登山に対する意識啓発や登山時の事故を未然に防止するための登山道の整備等、環境と観光の両立のための持続可能な観光客の受入体制を構築します。

・高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく訪れることができる環境整備を進めます。

b 富士見町

『第6次富士見町総合計画』では、「基本構想」（令和5～12年度）の6つの目標の中の「地域と産業が成長するまち」に位置づけられ、基本計画（前期）で対応する施策として「産業振興の強化」に位置付けられている。現状と課題として「人口規模と経済規模は比例するため、生産年齢人口を確保するためには地域経済・産業の活性化が必要になります。本町には、電子・精密系及び飲食料品製造業、農業などが集積しており、これら町の基盤となる産業の集積と成長を支援することが重要です。本町は首都圏との交通アクセスに強みを持っていますが、リニア中央新幹線新山梨県駅の開通により、首都圏・中京圏・関西圏との時間距離はさらに短縮されるため、ビジネス・観光・移住などの追い風となる

よう、各分野の産業と連携して成長の機会としていくことが求められています。

また、ゼロカーボンやDXなどの新しいトレンドに、地域や産業が各分野で対応していく必要があります。」としている。

具体的な施策として、主な事業「2大リゾートを拠点とした観光の振興」と、「多彩な地域資源の観光活用の推進」の2つが挙げられている。具体的な内容は以下のとおりである。

観光の振興

施策において目指すこと

町の豊かな自然環境を価値ある観光資源として活用し、圏央道や中部横断道の開通で友好都市や首都圏方面からのアクセスが向上したことを活かして、集客のための情報発信を強力に進めます。また、コロナ後のインバウンド需要の回復とリニア開通による広域移動の増加を見据えた誘客策を推進します。

富士見パノラマリゾート及び富士見高原リゾートの2大リゾートを核とした誘客により、町内の他の地点への周遊を促します。また、地域資源を活かしたコンテンツの充実により、滞在時間の延長と消費額の拡大、満足度向上、最終的には富士見町のファンを増加させ、2030年の町内観光客来場者100万人の達成を目指します。広域連携については周辺各市町村と連携して、情報発信を進めます。

主な事業

① 2大リゾートを拠点とした観光の推進

2大リゾートの魅力向上・施設更新等によって、滞在時間の延長と消費拡大、リピーター獲得を目指します。さらに、これらの集客の核から町内の立ち寄り地に誘導し周遊を促すとともに、各地の宿泊施設利用の促進、自然や文化を活かした観光を支援します。

また、町有スキー場の長期的な修繕計画については、富士見パノラマリゾートと連携をしながら進め、経営の安定を図ります。

② 多彩な地域資源の観光活用の推進

2大リゾートに続く集客スポットとして、道の駅直売施設の充実や井戸尻考古館の再整備、野菜テーマパークの活用など、自然環境、歴史・文化的遺産の観光資源を活かしたコンテンツを充実させて、観光客の町内周遊を促し、滞在時間の延長と消費額を増加させます。

また、八ヶ岳観光圏など近隣の観光DMOとも連携して、着地型、滞在型の広域的な観光地づくりに取り組みます。

③ 富士見ファンへの情報発信の強化

富士見町のファンを増加させるため、観光業と商業、農業の業種を超えた連携を推進し、地域全体の魅力を地域内外に情報発信します。

c 原村

『第5次原村総合計画』（平成28～令和6年度）では、「むらづくりの基本理念」の4つの項目の3つ目の『産業の連携による活力あるむら』に観光が位置づけられ、「今後は、本村の伝統工芸と移住者の芸術・工芸等の技術・文化との交流を通じて、多面的な機能を持つ農業を主軸にしながら、森林などの資源と、観光や工業、商業、サービス業等様々な産業が関連・連携を深めながら観光農園、特産品加工、芸術・工芸等、住民主体の原村らしい新しい地域産業を形成し、経済活動が村内で循環して地域力を高めていく新しい「しくみ」をつくります。」と記されている。

第5次原村総合計画【後期基本計画】（令和3～6年度）では、原村の将来像を「人と自然と文化が息づく美しい村」とし、5つの村づくりの目標を掲げ、その4番目の「産業振興による魅力・活力ある村づくり」の中に観光の施策が位置づけられ、「観光を中心にした、各産業間の連携」が掲げられている。具体的な内容は以下のとおりである。

1. 観光を中心にした、各産業間の連携

（1）農業と連携した観光振興（重点施策）
4年後のめざす姿 ・地域の人々とのふれあいなどが実感できるよう、農家やクラフトマン、宿泊施設等との連携を図り、体験型・滞在型観光を促進します。 ・的確な観光ニーズに対応する魅力あるメニュー、宿泊事業者と連携した受入れ体制の整備やPR活動・観光イベントの充実を図り、農業と連携し観光振興を推進します。 ・ブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリー、食用ほおずきの農園は定着してきましたが、農家の協力を得ながら、野菜・花卉等の観光農園も推進します。
現状と課題 ・観光ニーズも変化してきており、その地域特有の自然の中に身をおいた、自然、文化の体験や、芸術や趣味を楽しむ体験型・滞在型の観光が望まれています。 ・今後、農業と連携した体験型・滞在型の観光を展開することが求められています。
具体的な施策 ①工房や農家等の体験施設のネットワーク化と、体験メニューの提案 ②ペンションなどの宿泊施設や工房、農家等との連携による体験型・滞在型観光の促進、受入れのコーディネート体制の創設 ③農作物収穫体験等による新たな観光魅力の付加 ④モデルコースの提案と宣伝活動の推進 ⑤地域を挙げてのおもてなしの心の醸成
（2）森林を活用した観光振興

4年後のめざす姿 ・森林整備等を通して森林の持つ環境保全等の機能について体験学習できるプログラムを設け、これを観光資源として団体、学校等の誘客に繋げます。 ・「八ヶ岳森の小径」をPRし、ガイドツアー等による誘客を図ります。 ・森林スパ効果の宣伝と普及の促進を図ります。 ・大人のアスレチックやツリーハウスなど新しい取り組みを検討します。
現状と課題 ・本村の森林は、間伐等の手入れにより再生されてきています。また八ヶ岳の小径を利用した自然散策コース、マレットゴルフ場、自然体験林等として交流やレクリエーション、イベントなどに活用されています。
具体的な施策 ①森林資源を活用した交流の推進 ②森林資源を活用し、環境や健康に配慮した観光の促進
(3) 観光拠点の再生とネットワークの整備（重点施策）
4年後のめざす姿 ・住民参画による各種イベントや活動がさらに活発化するよう施設の改修を進め、自然との共生を目的とした活動として、多くの方々に利用されるよう施設機能の再編を行います。 ・寒さを資源とした新たな観光の活性化を図る事業等を推進します。また、景色や景観を楽しんでもらうことで、健康生活やスローライフの提案を行うとともに、エコ意識等の特色を出した資源活用を推進します。 ・ペンションなどの宿泊施設と八ヶ岳自然文化園及び八ヶ岳中央農業実践大学校等の各種施設とを関連づけた資源の見直しを行い、それぞれの施設が相乗効果を発揮できる活性化を目指します。 ・行政や観光事業者等の関係者、住民が連携して力強い誘客力を持った魅力ある観光地づくりに取組みます。 ・観光と他の産業を結んだ情報のネットワークを構築し、受入れ体制をより強化できる総合案内機能を整備します。 ・観光施設及びペンションは、観光客の受入れ施設であり、現在ある施設を活かした新たな魅力ある施設への機能の再生を行い、観光振興を図ります。 ・八ヶ岳自然文化園や樫の木荘とペンションが連携したB&B対応の食事の提供や、宴会等の協力体制を図ります。

現状と課題

- ・本村の観光資源としては、八ヶ岳中央高原を中心に約1,400人の収容能力を持つ約60軒のペンションなどの宿泊施設、八ヶ岳自然文化園、歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）、もみの湯、樅の木荘等の観光施設整備が行われてきました。また、これらの施設を活用した住民参画による各種イベントや活動が展開されています。
- ・観光客等が本村に訪れてからの案内施設は、たてしな自由農園にある観光案内所となります。本村を訪れていただいた観光客等の受入れ体制をより強化するためには、情報提供・観光資源等のコーディネートがより重要となっています。
- ・「日本で最も美しい村」連合に加盟したことを機に地域資源を結び、観光産業の活性化につなげることが期待されています。

具体的な施策

- ①原村版DMOの研究（観光村づくり）
- ②地域資源を活用した滞在型モデルコースの提案・PR
- ③各種施設やイベントなどの連携による活性化推進
- ④観光ガイドの育成
- ⑤情報ネットワークの構築による総合案内機能の整備やWi-Fiによる観光情報発信
- ⑥ホームページなどによる観光情報の発信
- ⑦観光拠点の強化
- ⑧魅力的な観光づくりの継続

2. 「原村ブランド」を活かした観光振興

（1）星・音楽をテーマとした観光ブランド

4年後のめざす姿

- ・現在行われている、星・音楽に関するイベントなどを支援し、さらに、新たなブランドへの取組みも進めます。
- ・情報提供を積極的に行うとともに、単発的なイベントで終わらせるのではなく宿泊や他の施設・体験に誘導することにより滞留時間を延ばすような取組を進めます。
- ・八ヶ岳観光圏の八ヶ岳ブランドとして星の案内人の育成を図り、ツアーや宿泊者の星の観望会強化を図ります。

現状と課題

- ・本村は、空気が澄み、満点の星が見える自然環境を持っています。大自然の中にある八ヶ岳自然文化園を中心に、各種団体、住民による星まつり・星空の映画祭・星空観望会等、星をテーマとした観光イベント、音楽を中心とした音楽会等が開催されています。これらのイベントの継続により、原村はブランド化されつつあります。
- ・これらは、新たな観光資源となるとともに、本村から全国への文化の発信源ともなっています。

具体的な施策

- | |
|---|
| ① ホームページや観光キャンペーンなどを活用したPR活動の推進
② 宿泊や体験・観光施設を組み合わせたモデルコースの提案・PR
③ プラネタリウムの設備や番組の更新
④ 星のガイド育成 |
|---|

○広域連携による観光振興

1. 観光推進体制の充実

4年後のめざす姿

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の枠を越えた活動とするための受け皿を設置し、観光振興を図ります。 <p>民間の観光産業関係者も巻き込んだ組織として取組めます。さらに、行政、観光連盟、商工会議所、商工会、民間企業、観光関連事業者等で構成するコンベンションビューロのような新たな組織の設立を図り、旅行業へのアプローチだけでなく、MICE※開催誘致等により、原村及び諏訪地方全体の産業競争力向上に繋がります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳観光圏整備事業や八ヶ岳定住自立圏事業を活用して、滞在型観光につながる持続的な取組みを促進します。 |
|--|

現状と課題

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・観光連盟によるイルミネーション事業、各実行委員会が主導の星まつりやクラフト市に代表される観光事業が行われています。 ・市町村の枠を越えた事業展開が必要となっており、観光客の趣向にあった旅行の設定や提供が望まれています。 ・広域的な観光をめざし、諏訪地方観光連盟が組織され統一した宣伝や各種活動を行っています。 ・山梨県側との接点が少なく、県境を境に観光情報が途絶えてしまう状況となっています。 |
|--|

具体的な施策

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①八ヶ岳観光圏を活用しての着地型旅行商品の企画・販売 ②メディアを積極的に活用した観光情報の発信 ③インバウンド事業の体制構築及び支援 ④キャンペーンなどPR活動協力団体の構築の検討 ⑤観光連盟・商工会等の活動支援 |
|---|

2. 広域の観光交通利用対策

4年後のめざす姿

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・観光シーズンにおけるJR各駅や高速バス停からの2次交通の確保により誘客を図ります。 ・リニア中央新幹線の山梨停留所からの2次交通を諏訪地域として検討していますが、直行バスの運行により、ペンションなどへの誘客を検討していきます。 |
|---|

現状と課題

- ・電車、高速バスを利用して原村を訪れる観光客の２次交通が課題となっています。

具体的な施策

- ① J R 各駅からのバス等のアクセス便の確保
- ② 高速バスを利用した誘客

イ 地域資源の現況と観光特性

八ヶ岳エリアは四季の移ろい鮮やかな地域で、その広大なエリアには日本人のみならず、外国人をも魅了する多くの自然資源や人文資源、観光レクリエーション施設が存在し、また安心・安全で、快適な宿泊施設が数多く立地している。

市町村別の観光客数の推移、各交流地区別の特徴、また、観光資源・地域資源、年中行事・イベント、観光客数及び宿泊客数、宿泊収容力の概要は、以下の通りである。

(ア) 各交流地区別の特徴

●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区

- ・八ヶ岳中信高原国定公園内にある八ヶ岳横断歩道を中心としたエリア。体験プログラムも多く夏のトレッキングや乗馬、冬のスノーシュー、スキーシューをはじめ、八ヶ岳登山口の起点となる箇所もあり、足下の自然と、南アルプス、富士山などの景観が楽しめるほか、そば打ち体験やクラフト体験も楽しむことができる。
- ・平山郁夫シルクロード美術館や中村キース・ヘリング美術館等をはじめ、大小さまざまな美術館や博物館が20件余りある。
- ・サンメドウズ清里スキー場の標高1,900mに設けられたテラスからは富士山を始めとする山々の眺望と、雲海が楽しめる。
- ・名水百選「八ヶ岳南麓高原湧水群」がある。

●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区

- ・金生遺跡は縄文時代の集落跡と中世の集落跡が複合した遺跡であり、谷戸城は平安時代末期の甲斐源氏の祖、新羅三郎義光の孫黒源太清光の居城址などがある。また近年には金田一春彦記念図書館が設置される等、この地は縄文時代から現代まで人々の生活が営まれてきた場所である。

●北杜市・オオムラサキ交流地区

- ・日本の国蝶である「オオムラサキ」は八ヶ岳観光圏内ではいたるところで見ることができるが特に多く生息しているのがオオムラサキセンター周辺である。オオムラサキが生息できる澄んだ空気、清らかな水、燦々と輝く太陽の恵みを感じることができる。また近くには、燦々と輝く太陽光を利用した北杜サイト太陽光発電所がある。

●北杜市・増富ラジウム温泉峡交流地区

- ・増富ラジウム温泉峡は、武田信玄が金山開発中に発見した隠し湯であるという伝承を持ち、ラジウム含有量世界一ともいわれる効能の高さから湯治場として栄えた温泉であ

り、自然療法や温泉療養等のプログラムも行われている。またこのエリアは、金峰山や瑞牆山への登山の起点であり、また紅葉の名所としても有名である。

- ・名水百選「金峰山・瑞牆山源流」がある。

●三代校舎ふれあいの里交流地区

- ・明治、大正、昭和それぞれの時代の校舎が再築され、農業・食・歴史を中心に都市との交流を行っている。
- ・古民家で、日本古来の暮らしを体験することができる。

●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区

- ・日照時間が日本有数のこのエリアには、約60万本のひまわり畑と県立フラワーセンター「ハイジの村」があり、八ヶ岳観光圏東側の花のエリアである。
- ・豆苗やトマトなど野菜の生産を行う農業生産法人が集積しているほか、ワイン用ブドウが広く生産されているエリアである。
- ・国史跡の梅之木遺跡（史跡公園）がある。

●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

- ・樹齢約2,000年、日本最古・最大といわれる「山高神代桜」があるエリア。日本三大桜の一つとして知名度が高く、八ヶ岳観光圏で一番先に咲くのもこの桜である。
また近くには約750mの桜のトンネルが楽しめる眞原桜並木がある。
この交流地区はおいしいお米の産地として有名であり、日本穀物検定協会の食味ランキングで最高評価の特Aを平成24年から5年連続、通算10回獲得している米を生産している。
- ・東日本一の名瀑とも言われる精進ヶ滝（石空川溪谷）がある。

●北杜市・歴史と名水の里交流地区

- ・南アルプスの高い山々と豊かな森により清冽な水が育まれている。2022年には、インターナショナルワインチャレンジ SAKE 部門で受賞した、創業寛延3年の酒蔵・山梨銘醸や名水を将来にわたって守り活かすため、里山整備にも取り組む菓子屋・金精軒が、歴史の風薫る旧甲州街道台ヶ原宿に軒を連ねている。また、国内有数のミネラルウォーターの採水地であり、工場見学など教育旅行の受け入れも多い地区である。

●富士見町・入笠山交流地区

- ・花の宝庫入笠山は、その名にふさわしく、数多くの山野草が咲き誇る。希少野生植物も生息しており、特に釜無ホテイアツモリソウと100万本の日本すずらんは本州随一の生息地として知られている。夏はトレッキングやマウンテンバイク、秋は雲海ゴンドラ、冬はスキーや、スノートレッキングなどのアクティビティも充実している。スキー教室や工場見学などの教育旅行の受け入れが多い地区でもある。

●富士見町・第3のシナリオ交流地区

- ・歴史的文化的な観光資源が多い富士見町の中心エリアは、地域住民と交流できる地区となっている。四季折々の花や自然が満喫でき、町名のとおり、富士山をはじめ、八ヶ岳

や南アルプス、北アルプスなど山々の眺望に恵まれている。

●原村・8つの頂を望む高原交流地区

- ・東に八ヶ岳、北は蓼科山、西に諏訪湖が控え、はるか遠くには北アルプスを望む。八ヶ岳の8つの雄大な頂をすべて望むことができる。農・商・工業を連携させ、原村ブランドの創出を図っている。

(イ) 観光資源・地域資源

計画対象地域は豊かな観光資源・地域資源に恵まれているが、(公財)日本交通公社による評価において最高位の「特A級資源」とされる観光資源はない。全国的な誘致力を持ち、観光重点地域の原動力として重要な役割を持つ「A級資源」は甲斐駒ヶ岳と八ヶ岳、御柱祭である。地方のイメージ構成の貴重となりうる資源としては、鋸山、鳳凰三山、瑞牆山、金峰山、茅ヶ岳、長坂のオオムラサキ、三代校舎ふれあいの里、清泉寮のソフトクリームとなっている。

八ヶ岳南麓高原湧水群、南アルプスの清流尾白川、金峰山・瑞牆山源流が日本名水百選に選定されており夏には涼しさを求め、秋には紅葉と渓谷美が多く観光客をひきつけている。

また、水資源を活用した日本酒やミネラルウォーター、清涼飲料水、化粧品、食料品や農産物が生産され、全国へ出荷されており、清らかで豊富な水資源は、エリアイメージ形成の重要な要素となっている。

更に、美術館や博物館、花関連の施設、テーマパーク、産業観光施設(工場等)、道の駅、農産物等の直売所、牧場など様々な施設があり、農産物その他の素材も豊富で、それらの地域資源や自然資源の組合せや商品化によって地域の魅力が形成されている。

(ウ) 年中行事・イベント

計画対象地域においては冬期には数が減るものの、年中行事やイベントがほぼ年間を通じて数多く開催されている。特に北杜市の清里エリアでの開催が多い。テーマは様々であるが、芸術や音楽に関するもの、農や食に関するもの、花に関するもの、スポーツに関するものなどが多い。

(エ) 宿泊収容力

対象地域にはホテル、旅館、民宿、ペンション、公的施設など多様な宿泊施設が立地している。

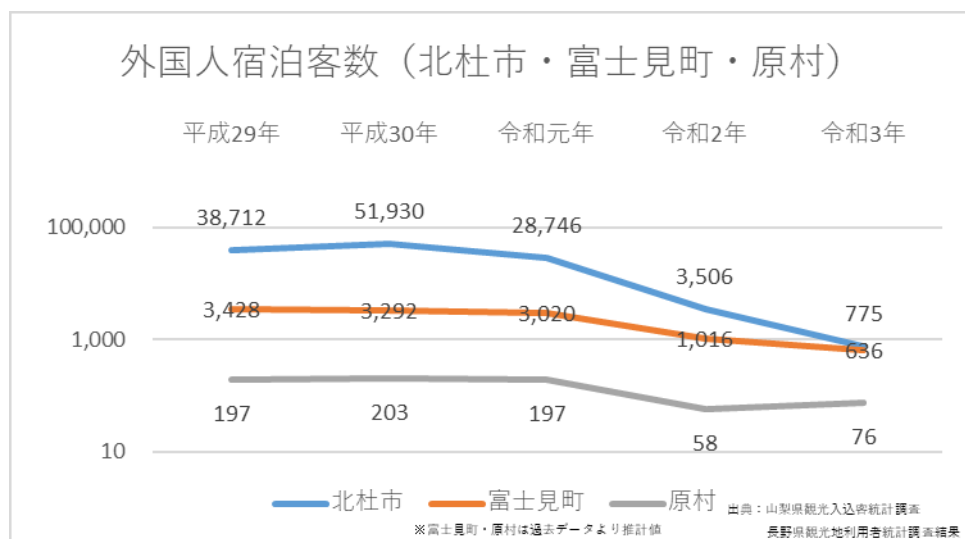
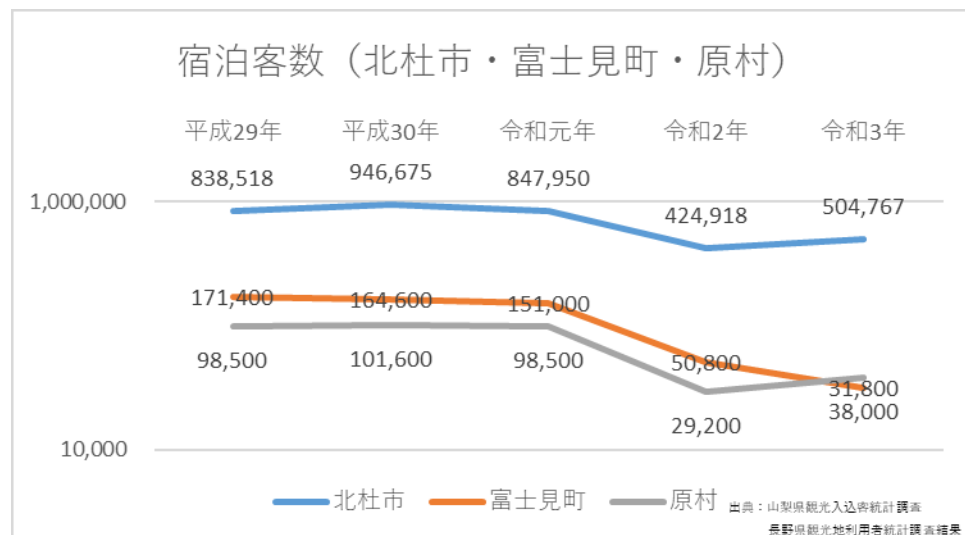
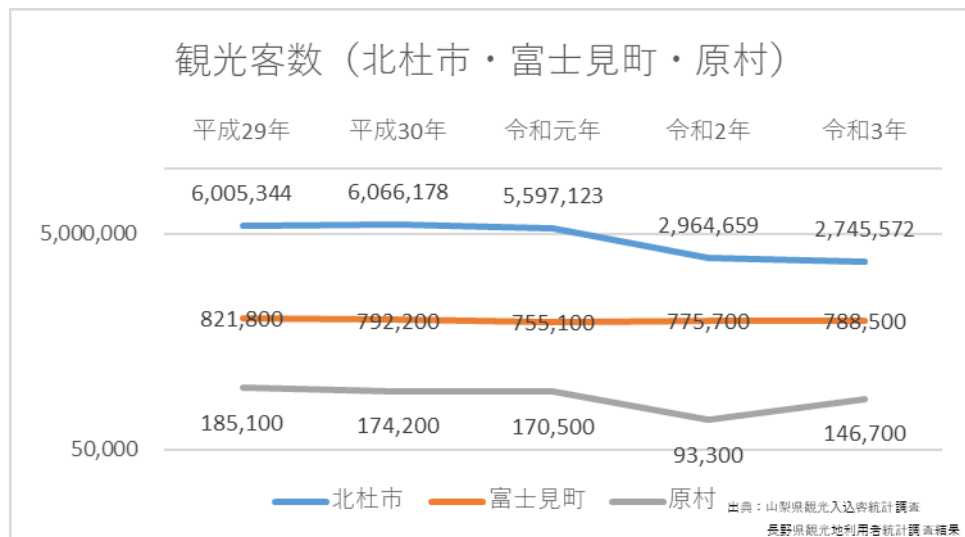
北杜市では、JR 小海線小淵沢駅から清里駅の沿線を中心に宿泊施設が集中している。ペンション・貸別荘の比率が多いが、大型のホテルも点在する。清里高原には、学校法人や友好都市の大型保養施設が多くある。その他、近年はアウトドアブームが追い風となり、グランピングやキャンプ場など簡易宿泊施設の開業が増加している。また、環境省が指定

する国民保養温泉地である増富温泉に数件集約されている。その他の地域はキャンプ場が多く、小規模の旅館やペンションが点在している。

富士見町では富士見高原リゾート周辺に宿泊施設が集っており、ペンションが多く、ペンションビレッジが形成されている。他にホテルや、スポーツ施設を備えた合宿向きの宿泊施設がある。その他、富士見パノラマリゾート周辺にペンションがあり、入笠山には、山荘などがある。

原村では、標高 1,300m前後の中央高原エリアに、約 60 軒のペンションが密集したペンションビレッジがあり、オーナーの個性や分宿対応を活かした学習旅行などに利用されている。また天然温泉、グラウンド、RVパーク、グランピング施設を備えた公共の宿がある。近年はキャンプ場や、貸切サウナ、ワーケーション設備を備えた宿泊施設もあり、村全体で団体旅行、個人客問わず様々なニーズに対応している。

●市町村別の観光客数の推移（延べ人数）



●観光資源の評価

種 別	ランク	名 称
山岳	A	甲斐駒ヶ岳
	A	八ヶ岳
	B	鋸山
	B	鳳凰三山
	B	金峰山
	B	瑞牆山
	B	茅ヶ岳
動物	B	長坂のオオムラサキ
年中行事（祭り・伝統行事）	A	御柱祭
建造物	B	三代校舎ふれあいの里
食	A	信州そば（全県）
	B	清泉寮ソフトクリーム
	B	ほうとう（全県）

*観光資源の分類と評価基準

資源分類		評価		
自然資源	人文資源	ランク	基準・内容	代表資源名
山岳 高原・湿原 原野 湖沼 河川・峡谷 滝 海岸・岬 岩石 洞窟 動物 植物 自然現象	史跡 神社・寺院・教会 城跡・城郭・宮殿 集落・街 郷土景観 庭園・公園 建造物 年中行事 動植物園・水族館 博物館・美術館 テーマ公園 ・テーマ施設 温泉 食 芸能・興行 ・イベント	S 特A級資源	わが国を代表する資源であり、世界に誇示しうるもの。日本人の誇り、日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。	富士山 屋久島の森 法隆寺 姫路城 祇園祭
		A A級資源	特A級に順じ、わが国を代表する資源であり、日本人の誇り、日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。	芦ノ湖 天橋立 浅草寺 上野動物園
		B 特別地域 観光資源	その都道府県や市町村を代表する資源であり、その土地のアイデンティティを示すもの、その土地を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいたいもの、また、その土地に住んでいる方であれば一度は訪れたいもの。	筑波山 志賀高原 浜名湖 アメ横 熱海温泉

資料：（公財）日本交通公社、観光資源台帳

計画対象地域におけるその他の観光資源

●北杜市

明野ひまわり畑	天女山
ハイジの村（山梨県フラワーセンター）	日向山（山梨百名山）
美し森	甲州街道台ヶ原宿（日本の道百選）
青春芸術村	金生遺跡（国史跡）
津金三代校舎	梅之木遺跡（国史跡）
山高神代ザクラ（日本三大桜/新日本名木百選）	谷戸城址（国史跡）
眞原桜並木	みずがき山自然公園
燕桜並木	県立まきば公園
神田大糸ザクラ	キープ協会・清泉寮
増富ラジウム温泉峡（にほんの里百選）	萌木の村
須玉美術館	サンメドウズ清里・清里テラス
安達原玄仏画美術館	八ヶ岳リゾートアウトレット
浅川伯教・巧兄弟資料館	リゾナーレ八ヶ岳
ポール・ラッシュ記念館	身曾岐神社
平山郁夫シルクロード美術館	白州・尾白の森名水公園べるが
青春白樺美術館	サントリー白州蒸溜所・水工場（大人が楽しめる社会科見学百選）
オオムラサキセンター	シャトレーゼ白州工場
金田一春彦記念図書館	あけの金時
中村キース・ヘリング美術館	八ヶ岳ビールタッチダウン
藪内正幸美術館	山梨銘醸・七賢
東沢大橋（日本の橋百選）	金精軒・水信玄餅
八ヶ岳高原大橋	梨北米
本谷川溪谷・通仙峡（平成の名水百選）	ヨンパチ米・農林48号
川俣川溪谷・吐竜の滝	道の駅南きよさと
三分一湧水・大滝湧水（名水百選）	道の駅こぶちさわ
尾白川溪谷・千ヶ淵（名水百選）	道の駅はくしゅう
石空川溪谷・精進ヶ滝（日本の滝百選）	町の駅武川農産物直売センター
八ヶ岳横断歩道	高根クライנגアルテン
信玄棒道（歴史の道百選）	J R小海線（ローカル線百選/ハイレール1375）
オオムラサキ遊歩道（遊歩百選）	村山六ヶ村堰疎水（世界かんがい施設遺産）
	北杜サイトメガソーラー（新エネ百選）

●富士見町

高原のミュージアム	井戸尻遺跡(信州ふるさとのみえる丘)
入笠湿原	カゴメ富士見工場
富士見高原リゾート	カゴメ野菜生活ファーム
井戸尻考古館	ルバーブ
富士見町歴史民俗資料館	ほおずき
富士見パノラマリゾート	アルパカ牧場
道の駅信州蔦木宿	稗の底古村址
おっこと亭	創造の森彫刻公園(関東の富士見百景)
富士見高原創造の森	立沢大規模水田地帯(関東の富士見百景)
真澄蔵元	葛窪中央道トンネル(関東の富士見百景)
	入笠すずらん公園(信州ふるさとのみえる丘)

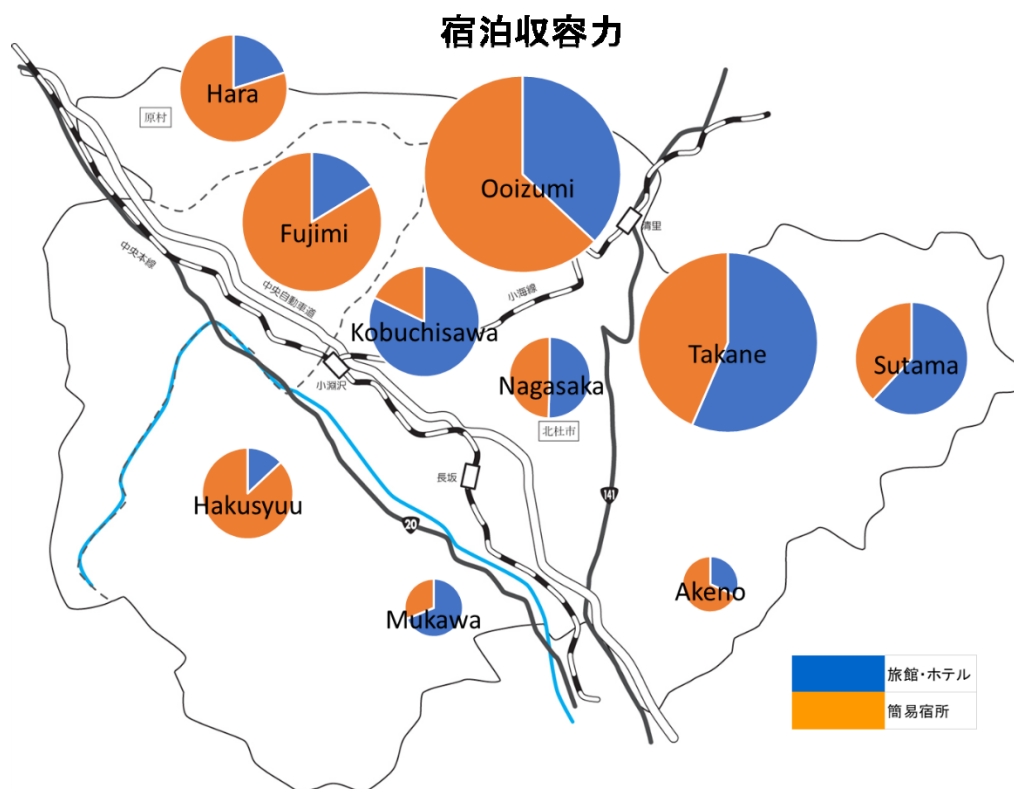
●原村

八ヶ岳美術館	阿久遺跡
八ヶ岳自然文化園	セロリ
八ヶ岳温泉ふれあいセンターもみの湯	アネモネ
八ヶ岳中央農業実践大学校	ブロッコリー
たてしな自由農園	御小屋山(御柱山)
レストハウス樅の木荘	八ヶ岳の小径
小さな絵本美術館	まるやち湖
阿弥陀聖水	諏訪大社上社御柱祭出発の地

資料：各市町村

年中行事・イベントのスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハケ岳		寒いほどお祭フェア スターラウンドハケ岳		ハケ岳天竺観覧会				ハケ岳フォトフェスタ				スターラウンドハケ岳
北杜市			●山梨県総合大会 ●シェフズバトル	●神代松祭り ●アニメスーパードライブイベント ●長坂夜桜まつり	●長次郎のほろ祭り ●鳩山祭り大盆 ●清里トレッキング	●つつし祭り ●清里ウォーク ●白川の新バイクロード ●サチュアルガーデンズWDEGI	●ハゲ岳まつりおこらえやわ ●ハゲ岳ジャズフェスティバル ●こぶちさわすらん祭り ●清里フィールドバレエ ●清里トレッキング	●明野サンクラブワークフェス ●ハゲ岳新能 ●ハゲ岳ジャズフェスティバル ●こぶちさわすらん祭り ●清里フィールドバレエ ●清里トレッキング	●ワイ・&Gグラフィックフェスタ ●ハゲ岳ジャズフェスティバル ●カントリーフェスタ ●ハゲ岳トラバースロード&トレイルラン ●スリピークxスハケ居トレイル ●グランフオンドピナレロハゲ岳withグラベ ●むかわ米・米まつり ●清里駅前56みんなでメイクアップ ●ほくと監のまち祭り ●フェスタまきば ●清里トレッキング	●ポールジョギング祭～ハゲ岳マディフェア ●台原産市 ●秋のぼくどトラベル ●カントリーフェスタ ●カントリーフェスタ ●ハゲ岳トラバースロード&トレイルラン ●スリピークxスハケ居トレイル ●グランフオンドピナレロハゲ岳withグラベ ●むかわ米・米まつり ●清里駅前56みんなでメイクアップ ●ほくと監のまち祭り ●フェスタまきば ●清里トレッキング		
富士見町	●デジタルスタンプラリー	●初日の出リフト ●富士山の目撃念イベント		●グリーンファエア	●史跡巡りツアー ●入笠山開山祭	●ハゲ岳クロスカントリー ●THE CAMP BOOK	●OKU祭り ●料理家 ●国文巡りツアー ●モノバイカーズフェスティバル	●人笠山エコ・ジオツアー ●ナイトゴンドラ ●アウトドアドッグフェスタ ●プリミアム醤油ゴンドラ	●ナイトゴンドラ ●アウトドアドッグフェスタ ●花の里オープン	●アドベンチャーin富士山 ●高瀬の縄文王國収獲祭 ●紅葉巡りツアー	●道の駅笹子温泉宿新そば祭り ●おうちと幸崎そば祭り ●紅葉巡りツアー	
原村				●ぼる横断展示即売会	●高瀬産市	●ハゲ岳開山祭	●ハゲ岳自然文化園がは市	●針ヶ利ザミ原村星まつり ●原村よいしょまつり ●星空の映画祭 ●ハゲ岳ジャズコンサート ●はらむら古美術祭	●古布の市	●ハゲ岳まるごと収穫祭	●イルミネーション「KIN原村」	



	施設数			客室数			人数		
	旅館(木)	簡易宿所	計	旅館(木)	簡易宿所	計	旅館(木)	簡易宿所	計
北杜市	199	179	378	2,659	1,631	4,290	8,370	8,546	16,916
明野	3	4	7	48	50	98	115	248	363
須玉	12	18	30	253	109	362	1,109	681	1,790
高根	82	48	130	880	376	1,256	2,735	2,104	4,839
長坂	11	16	27	128	82	210	432	423	855
大泉	45	46	91	727	741	1,468	2,161	3,691	5,852
小淵沢	33	19	52	510	102	612	1,401	305	1,706
白州	8	21	29	51	144	195	145	971	1,116
武川	5	7	12	62	27	89	272	123	395
富士見町	10	53	63	126	424	550	463	2,378	2,841
原村	15	71	86	141	433	574	324	1,281	1,605
合計	224	303	527	2,926	2,488	5,414	9,157	12,205	21,362

* 注意: 上記は、旅館業法の届出資料を基に、判断できる範囲で廃業施設を除いた数値

ウ 観光地づくりを達成するための課題

● 行政について

- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがっており、自治体のみの施策には限界がある。

● 観光資源・地域資源について

- ・ 有機的な連携が弱い観光施設、スポット。
- ・ スポーツツーリズムをテーマとした事業者連携が図られていない。
- ・ 農業関連の資源や森林資源等の観光利用が不足している。
- ・ 案内板、トイレや駐車場等の利便施設が十分に整っていない。
- ・ 廃屋や休業施設や荒廃した農地、山林など景観保全ができていない場所がある。
- ・ 面積が広大で観光ポイントが分散・点在している。

● 宿泊施設について

- ・ 家族経営のペンションが多く、世代交代や事業継承が進んでいない。
- ・ 施設更新をしたいが小規模宿泊施設は経済的体力がなく進まない。
- ・ 高付加価値化の必要性は理解しているが、経済的体力がない
- ・ インバウンド受入を前向きに検討している宿泊施設が少ない。
- ・ 夏期と冬期の観光需要変動が激しく平準化されない。

● 交通について

- ・ ピーク時（夏場等）の観光施設周辺で交通渋滞が発生。
- ・ ピーク時（夏場等）の観光スポットにおける駐車場が不足。
- ・ 駅からの観光周遊バス等2次交通の利便性が悪い。
- ・ 高速バス利用の場合、バス停からの接続交通が不十分。
- ・ 2次交通整備と観光フリーパス等のチケットの導入が定着しない。
- ・ 羽田や成田空港からのバスや鉄道による直行便がない。

● 情報提供・発信について

- ・ 多様な体験コンテンツが存在するが、宿泊と連動した情報発信が弱い。
- ・ アート、音楽などをテーマとした滞在プログラムあるが情報発信が弱い。
- ・ 観光圏のシンボルとなる着地型旅行商品の情報発信を強化する必要がある。
- ・ 眺望を楽しめるビューポイントの整備が進んでいるが情報発信が弱い。
- ・ サステナブルを前面にした宿泊滞在プランがあるが情報発信を強化する必要がある。
- ・ 圏域の特徴である標高差による気候、農産物、風景の変化をアピールできていない。
- ・ 観光圏事業推進に対する、圏域事業者の理解を更に深める必要がある。
- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがるが圏域内での情報共有機会を増やす必要がある。
- ・ ワンストップサービス窓口において旅行商品販売ができる体制が求められる。
- ・ SNS等を活用した情報発信において、関係者の役割分担が明確になっていない。
- ・ 各団体のHPが「観光誘客」と「利便性を向上」の情報発信が混在し、わかりにくい。
- ・ インバウンド誘客に向けた商談や営業機会が不足している。
- ・ インバウンド対応（多言語）の情報発信ができていない。

- ・ 訪日外国人旅行者へのアクセス情報提供が不足している。
- ・ 圏域としてスノーリゾートの発信が弱い。
- ・ 訪日外国人旅行者に対する富士山の眺望をアピールできていない。
- ・ 訪日ムスリム外国人旅行者の宗教的・文化的な習慣に対応する理解が進んでいない。

● 観光人材育成について

- ・ 滞在型観光を推進するためのガイド等人材が不足している。
- ・ 質の高いコンテンツ造成のためのコーディネーター、オペレーターが不足している
- ・ 観光地域づくりに対する地域住民意識が低い。
- ・ 訪日外国人旅行者の受入れに対する地域の抵抗感がある。
- ・ 宿泊施設従業員等の外国語対応や通訳ガイドが不足している。

● 広域連携について

- ・ インバウンド需要獲得には、全国観光圏推進協議会や関東観光広域連携事業推進協議会等、広域周遊観光促進に資する組織との連携を図る必要がある。

SWOT分析結果

ハヶ岳観光圏では、構成する3市町村個別の問題点及び観光圏共通の問題点を地域の特性及び現状を踏まえSWOT分析を行った結果は下記のとおりである。

ハヶ岳観光圏の「強み」は「自然」「星空」「芸術」「爽やかな気候」等住みやすい環境であり、反面「弱み」として「2次交通」「情報発信力」「認知度の低さ」等インフラ整備の低さがあげられている。また「機会」は「ブランド力」「癒し健康志向」「環境への意識」等自然環境のすばらしさであり、「脅威」として「地域間競争激化」「厳冬イメージ」等があげられている。

◆SWOT分析結果

内部環境	強み	自然・星空・都心から至近・食・高原リゾート(ブランド)・温泉・芸術・欧風の雰囲気・1000メートル・山の魅力(景観・スポーツ)・爽やかな気候
	弱み	2次交通・情報発信力・日帰り観光・人材育成・認知度低い・地域連携(事業者・住民)の弱さ
外部環境	機会	ブランド力・節電対策・ロケ地・癒し健康志向・環境への意識・FIT化・農山村教育・アラフォー世代・山ガール
	脅威	地域間競争激化・定住者減少・厳寒イメージ・訪日外国人減少・温暖化／環境破壊・レジャー多様化(スキー減少)・交通インフラ向上

◆競合地域との比較

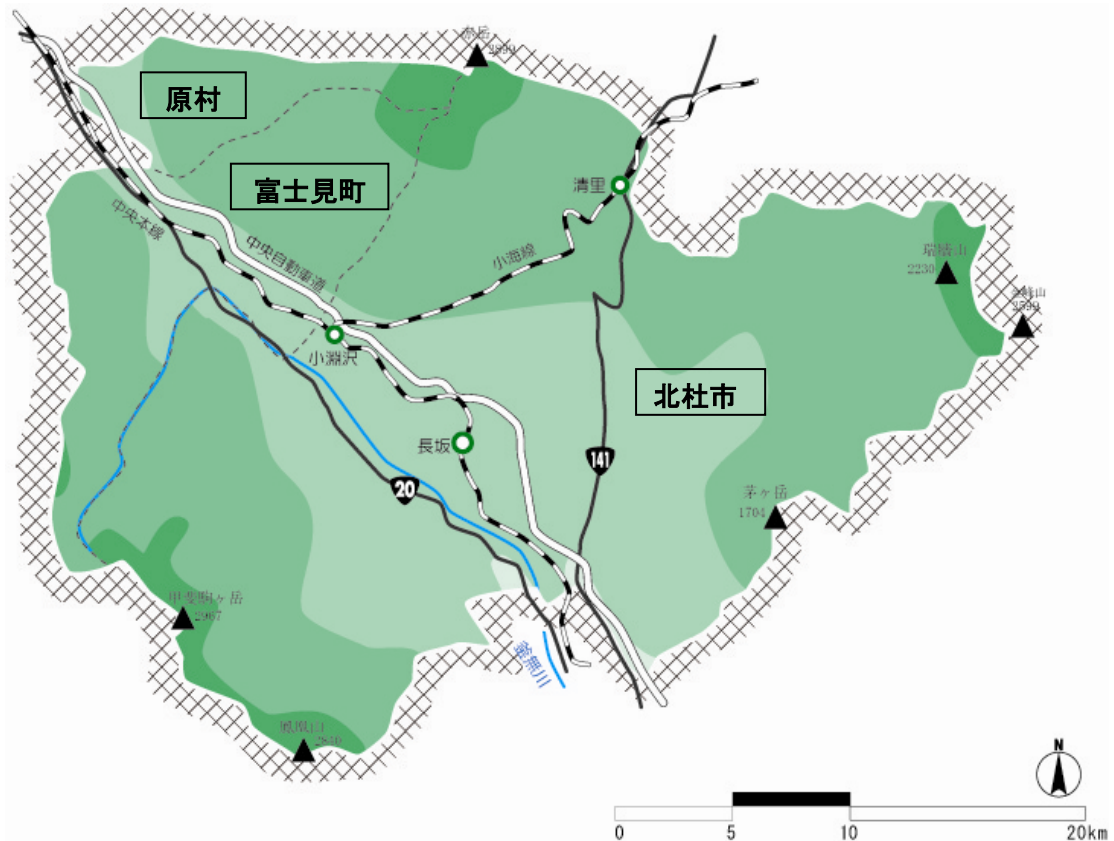
	軽井沢	富士五湖エリア	那須高原	ハヶ岳エリア
クラスターのイメージ	若い女性 シニア夫婦(富裕層)	ファミリー／社員旅行(研修)	ファミリー／若い女性	ファミリー(夏季)／熟年
キラーコンテンツと地域のイメージ	圧倒的・国際的な避暑地イメージ ゴルフ／テニスなどスポーツ	富士山／湖	ファミリー施設(テーマパーク) 温泉	ハヶ岳(含む景観) 澄んだイメージ(星空など)
標高	900～1000メートル	800～900メートル	400～500メートル	400～1400メートル (標高差1000m)
気候	・年間平均気温：10.2度 ・8月平均気温：22.6度 ・冬季最低気温：－15度 ・降水量(ミリ)：1000～1500 ・日照時間：1880時間	・年間平均気温：10.6度 ・8月平均気温：23.0度 ・冬季最低気温：－8度 ・降水量(ミリ)：1600～1700 ・日照時間：1750時間	・年間平均気温：9.3度 ・8月平均気温：21.1度 ・冬季最低気温：－21度 ・降水量(ミリ)：1900～2000 ・日照時間：1540時間	・年間平均気温：10.7度 ・8月平均気温：22.3度 ・冬季最低気温：－15度 ・降水量(ミリ)：1100～1200 ・日照時間：2080時間
交通手段 (2次交通含む)	首都圏から車で約2時間半 首都圏から新幹線で1時間半 中心エリアまでは徒歩圏内	首都圏から車で約2時間弱 富士急行線／中心エリアまでの路線バス充実	首都圏から車で約2時間弱 新幹線約1時間強 バスはホテルまたは路線バス (1時間に1～2本程度)	首都圏から車で約2時間半 あずさにて約2時間(小淵沢) エリア内リゾートバスなど
宿泊施設 (イメージ含む)	ホテル・ペンション (別荘のイメージも)	温泉旅館／ホテル	温泉旅館／ホテル	ペンション／ホテル (全体的に宿泊のイメージ弱い)
着地商品 体験プログラム	自然を中心とした取組多し (美術館巡り／動物ウォッチング)	家族向けアクティビティ多し (湖を活かした展開)	山岳・トレッキング系 美術館・ものづくり多数	自然を活かした展開 山岳・トレッキング系 農業(酪農)体験など

2 基本的事項

(1) 観光圏の区域

ア 八ヶ岳観光圏の区域

山梨県：北杜市、長野県：富士見町、原村



イ 設定理由

八ヶ岳観光圏を構成する山梨県北杜市、長野県富士見町及び原村は山梨県と長野県の県境にそびえる日本百名山の一つである八ヶ岳の主峰赤岳より南側に広がる地域で県境を挟んで東側の北杜市、西側の富士見町及び原村が位置し、八ヶ岳南麓の豊かな自然環境と長い日照時間、夏季は冷涼、八ヶ岳や南アルプスの眺望、富士山が遠望される優れた景観を有している地域である。またその豊かな自然は、約30分以内の移動で標高差が1,000mにもなる変化のある地形のため、花や紅葉の時期のずれや農産物の収穫時期や種類の違い等にも変化が見られる。

このエリアは古くは約5,000年前、縄文文化といわれる共通の文化が栄え、縄文銀座とも云われるほど多くの人々が住み、素晴らしい造形の土器をつくり栄えた地域であった。現在も癒しを求め別荘が建ち、美術館や工房等も数多く点在し、芸術家やクラフトマン等が創造の地として移り住み工房等を開いている状況は縄文時代から現在まで「住んでよし」を実証しているエリアである。

現在、このエリアに住む人々は北杜市から日用品の購入のため富士見町のショッピングモールを訪れたり、病院の利用、小中学、高校生が近くにある学校へお互いの県域を越え通学していたり、八ヶ岳エリアの生活圏は県域を越えお互いの不便な部分を補いつけてきた。

平成20年に行政や観光協会等団体等で環境美化や自然保護を目的として南北八ヶ岳保護管理運営協議会（北杜市、富士見町、原村を含む10市町村）を設立し活動を行っているほか、北杜市と富士見町は隣接することから平成18年に広域消防相互応援協定を結んでいる。また民間宿泊施設及び日帰り観光施設が連携し2次交通等の事業を手がけていた「八ヶ岳南麓やとわれ支配人会」、美術館や博物館では「八ヶ岳ミュージアム協議会」、花卉園芸等では「八ヶ岳グリーンネットワーク」が立ち上がり交流を深め、また事業を展開している。

平成27年には、中心地を北杜市とし、富士見町、原村とともに「八ヶ岳定住自立圏」として、市町村が相互に連携と協力を行い、圏域全体の生活機能の強化等に取り組み、定住人口の確保と地域活性化を図る取り組みを行っている。

このエリアは、首都圏から2～3時間圏に位置し、圏域の玄関口である北杜市小淵沢町は、県域を越えたエリア内の交流地区のほぼ中心であり、車で30分以内で主たる滞在促進地区である小海線沿線滞在促進地区や圏域内に点在している八ヶ岳南麓高原交流地区をはじめとする各交流地区が放射状に位置している。そのため、主に車でのアクセスを「道の駅こぶちさわ観光案内所」、鉄道でのアクセスは「小淵沢駅観光案内所」が情報提供の核となり、それぞれのエリアで来訪者が望む滞在プランを提供することができる範囲であることから八ヶ岳観光圏の区域に設定した。

ウ 連絡先

八ヶ岳観光圏整備推進協議会事務局

所 在 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1

名 称 北杜市役所産業観光部観光課

事務局長 観光課長 土 屋 直 己

E-mail : tsuchiya-nao@city.hokuto.lg.jp

事務局員 観光課観光振興担当 長 坂 恵 一

E-mail : nagasaka-kei@city.hokuto.lg.jp

溝 口 有 紀

E-mail : mizoguchi-yuk@city.hokuto.lg.jp

T E L 0 5 5 1 - 4 2 - 1 3 5 1

F A X 0 5 5 1 - 4 2 - 5 2 1 6

(令和5年3月20日現在)

(2) 滞在促進地区の区域 (区域図：資料1参照)

ア 主たる滞在促進地区

名称 小海線沿線滞在促進地区

設定理由 J R小淵沢駅から清里までの小海線沿線周辺は、圏域で最も、大型のホテルや個人経営のペンションが集積している地区である。また、圏域の魅力を最も象徴する「県営八ヶ岳牧場天女山分場」等の観光資源、観光施設等も集積している地区である。

圏域への玄関口である小淵沢は、J R中央本線では特急の停車する駅であり、J R小海線の起点、そして2次交通の起点となっている。また自動車利用の場合、中央自動車道小淵沢I.Cからも程近い場所と利便性もいい。

そのため「道の駅こぶちさわ観光案内所」、「小淵沢駅観光案内所」に、来訪手段それぞれのワンストップ窓口としての機能を持たせることで、主たる滞在促進地区内及び交流地区へ車で、30分以内でアクセスすることが可能となることから本地区を主たる滞在促進地区と設定した。

イ その他滞在促進地区

名称 増富温泉峡滞在促進地区

設定理由 増富ラジウム温泉峡はラジウム含有量が世界一と言われており、環境省が指定する国民保養温泉地に指定されている。リピーターの湯治客が多く、滞在日数も比較的長い方が多い。

名称 富士見高原滞在促進地区

設定理由 スキー、ゴルフ、陸上競技、編笠山登山など四季を通してスポーツが楽しめる総合リゾート「富士見高原リゾート」を核に、ホテル、貸別荘、ペンションなどの宿泊施設が立地している。日本三大高峰が望める富士見高原創造の森の散策は人気を博している。

名称 原村ペンションビレッジ滞在促進地区

設定理由 八ヶ岳西麓で、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを望む標高約1300メートル位置する原村のペンションビレッジは、日本有数のペンションリゾート。特徴的なペンションが数多く立地している。10の森の小径が整備され環境・健康・そして感動へのいざないへと繋げている。

(3) 観光圏整備事業の実施体制

ア 主たる滞在促進地区における実施体制

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会、NPO法人清里観光振興会及び八ヶ岳南麓やとわれ支配人会等のほか、圏域外ではあるが長野県南牧村(野辺山)地域も含め小海線沿線で活動している人々が連携し滞在プログラム、アクセス改善、宿泊サービス改善、人材育成に関するプログラム等を企画、調整する。

また主たる滞在促進地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

イ 交流地区における実施体制

●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、NPO法人清里観光振興会及びやとわれ支配人会等のほか、圏域外ではあるが長野県南牧村(野辺山)地域も含め小海線沿線で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また八ヶ岳横断歩道交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会及びやとわれ支配人会等谷戸城址周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また金生遺跡・谷戸城址交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・オオムラサキ交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、北杜市立オオムラサキセンター等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

またオオムラサキ交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●三代校舎ふれあいの里交流地域

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会等三代校舎周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また三代校舎ふれあいの里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会、山梨県立フラワーセンター及び北杜市農業振興公社等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

またひまわり畑とフラワーセンター交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び神代桜祭り実行委員会、北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また神代桜とこめの郷交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●北杜市・歴史と名水の里交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び台ヶ原宿周辺で活動している人々、北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また歴史と名水の里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

●富士見町・入笠山交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会及び一般社団法人富士見パノラマリゾート等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また入笠山交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

●富士見町・第3のシナリオ交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また第3のシナリオ交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

●原村・8つの頂を望む高原交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、原村観光連盟及び一般財団法人八ヶ岳自然文化園等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また8つの頂を望む高原交流地区が在る原村は全体総括の支援を行う。

(4) 観光圏整備計画の目標

八ヶ岳観光圏が目指すコンセプト「1000mの天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」を実現するため、以下の目標を設定する。

ア 量的目標（観光客数、宿泊客数）

当観光圏は既に多くの国内観光客が来訪している観光地であるが、人口減少、少子高齢化の影響もあり、今後、国内旅行者に関し、量的（観光客数、宿泊客数）には大きな伸び（率）を見込むことが難しいものの、インバウンド回復に対する施策を重点的に進めることにより、観光圏整備計画の目標年次である令和9年度には量的にも一定の成果が得られるよう、観光圏整備事業を組み立て、その確実な推進を図っていくこととする。

なお、目標数値の設定に当たっては、観光圏域と同一圏域である八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンにおける目標数値を設定することとし、項目に応じて前年比1～5ポイント上昇を目指すこととする。年次毎の評価は、その都度、景気の動向や当観光圏を取り巻く環境等を的確に捉えて総合的に判断し、次年度につなげていくこととする。

●量的目標（観光客数・宿泊客数）

◆観光客数（実人数）＊ハヶ岳定住自立圏共生ビジョン目標数値（R2－R6）

		令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年	令和９年
北杜市	人	4,619,506	4,659,735	4,700,000	4,841,000	4,986,230	5,135,817
	%	—	—	—	103	103	103
富士見町	人	782,106	791,308	800,509	824,542	849,260	874,738
	%	—	—	—	103	103	103
原村	人	74,400	75,200	76,000	76,760	77,528	78,303
	%	—	—	—	101	101	101
計	人	5,476,012	5,526,261	5,576,509	5,742,284	5,913,018	6,088,858
	%	—	—	—	103	103	103

◆宿泊客数（実人数）＊ハヶ岳定住自立圏共生ビジョン目標数値（R2－R6）

		令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年	令和９年
北杜市	人	985,114	994,965	1,004,915	1,025,013	1,045,514	1,066,424
	%	—	—	—	102	102	102
富士見町	人	88,641	89,684	90,727	92,542	94,392	96,280
	%	—	—	—	102	102	102
原村	人	107,800	110,900	114,000	115,140	116,291	117,454
	%	—	—	—	101	101	101
計	人	1,181,555	1,195,548	1,209,641	1,232,695	1,256,197	1,280,158
	%	—	—	—	102	102	102

◆外国人宿泊客数（実人数）＊ハヶ岳定住自立圏共生ビジョン目標数値（R2－R6）

		令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年	令和９年
北杜市	人	59,030	60,800	62,624	65,755	69,043	72,495
	%	—	—	—	105	105	105
富士見町	人	65	68	70	74	77	81
	%	—	—	—	105	105	105
原村	人	550	573	600	612	624	637
	%	—	—	—	102	102	102
計	人	59,645	61,441	63,294	66,441	69,744	73,213
	%	—	—	—	105	104	104

イ 質的目標（顧客満足度）

ハヶ岳観光圏では、平成２７年度から全国観光圏統一の７段階評価の来訪者満足度調

査を実施してきた。最新となる令和3年度の調査結果からは、夫婦の39.6%を筆頭に、大人の家族、友人との来訪が全体の73%以上という結果であった。来訪回数は「初めて」が18.5%、2回以上のリピーターが81.5%と割合が多く、旅行全体の滞在種別ではおよそ4割が宿泊客であるが、そのうち約6割は1泊2日、約2割が2泊3日である。

来訪者の満足度について、「景観や雰囲気」の項目で満足度が高く、自然景観は回答が88.1%と圧倒的に高く、街の景観も66.9%と高い満足度を得ている。「食事・飲食店」の項目でも、6割近い満足度を得ている。しかし、「宿泊施設」に関する項目が3割強となっており厳しい評価を受けている。「体験プログラム」の項目については、全体数からみると利用割合が低調となっている。

総合満足度については、89.1%と全観光圏の89.8%をやや下回る結果であった。再来訪の意向は、79.2%と全観光圏平均の71.1%を大きく上回る結果となった。

この調査の結果、旅行平均消費金額が、22,455円で、全観光圏の平均34,048円を下回っており、特に宿泊費について全観光圏平均から約3,000円下回った。

今後に向けては、インバウンド回復に伴う観光ガイドや通訳ガイドの人材育成等も含めた受入環境の向上に向けた取り組みは基より、宿泊とコンテンツを併せた高付加価値化を図っていくことが重要である。

目標値設定の考えとして、全観光圏平均に劣る項目については、まずは追いつくことを目標として設定する。全観光圏より高い項目については、5年後の目標値を3ポイント上昇として設定する。

●主たる滞在促進地区目標値

(1) 来訪者の満足度、紹介意向、再来訪意向

	単位	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合満足度 大変満足	%	89.1 27.0	89.3 28.4	89.5 29.2	89.6 29.9	89.7 30.6	89.8 31.3
再来訪意向 大変そう思う	%	79.2 28.7	80.2 29.7	80.7 30.2	81.2 30.7	81.7 31.2	82.2 31.7

(2) 旅行消費額（一人あたり平均）

	単位	令和3年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
日帰り	円	8,744	9,506	9,887	10,267	10,648	11,029
宿泊	円	32,945	35,474	36,739	38,004	39,268	40,533

（５） 計画期間等

本計画の期間は、令和５年４月１日から令和１０年３月３１日とする。

ただし、計画の進捗状況や社会情勢の変化及び環境に対する制度等の状況に合わせて、必要に応じて計画の見直しを行う。

●計画の見直しの手順

①協議会代表者である一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、定期的に、各事業の進行状況を把握し、管理を行う。

②年度毎に、一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントは各観光圏整備事業者とともに、その実行状況のとりまとめと、次年度以降の計画推進において各事業の改善へとつなげるために課題の抽出や重点的に取り組む事項などの検討を行う。

P D C Aサイクルの考え方にに基づき、各事業の実施状況、目標達成状況、今後の実施方針等を整理し、取りまとめる。

*Plan（計画の策定）→Do（計画の実行）→Check（実施状況の確認・評価）→Action（評価結果の計画への反映・計画の見直し）

上記を「八ヶ岳観光圏整備推進協議会」において点検・評価し、次年度以降の計画推進における事業展開の見直しに反映する。

（６） 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況

八ヶ岳観光圏整備推進協議会は、山梨県と長野県の県境をまたぐ３市町村の観光まちづくりに係わる多種多様な主体を構成員としている点が大きな特徴である。

よって住民その他の利害関係者の意見や圏域内のニーズの把握は、協議会、市町村担当者会議、観光地域づくりマネージャー会議、協議会代表者である（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメントとの打ち合わせ等の開催により行ってきた。

また、協議会代表者である（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、これまでの観光圏の取組と日本版DMOが目指す地域づくりに関するセミナー等を開催し、質問や意見をいただく場とするほか、観光地域づくりへの意識の高揚を図った。

会議を重ねる中で、観光圏整備計画、同実施計画の作成と、観光まちづくりに対する気運の醸成、観光圏整備事業に対する理解促進を図ってきた中で、これからの観光圏域の将来像を探る観光地域づくりマネージャーが育成されてきた。今後も観光地域づくりマネージャーを中心に地域住民の意見を反映できる体制を整えていく。

（７） 地域住民の観光地域づくりに対する意識啓蒙と参加促進を目指すための取組

観光地域づくりの中心的役割を担う、観光地域づくりマネージャーによる一般住民を巻き込んだワークショップやイベント等の開催を通じて、地域住民への意識啓蒙や参加促進を図る。地域住民の観光地域づくりに対する機運醸成には、経験、知識に裏付けられた専門性も求められることから、観光地域づくりマネージャーを対象としたセミナー

など開催し、継続的に育成事業を行う。

また、地域住民を対象とした住民満足度調査を実施し、効果測定、活動評価を行う。関係自治体は各種アンケート調査と横ぐしとなるよう調整や連携を図り、住民の意見が観光圏事業に反映できるよう取り組む。

3 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する 基本的な方針

●ハケ岳観光圏が目指す、変わることのないコンセプト

「1000mの天空リゾートハケ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」について

ハケ岳観光圏の特徴は、「その昔、富士山とハケ岳が背比べをして、ハケ岳は、日本の最高峰富士山を凌ぐ高さであった」と地域に民話として伝わるように、上層部は主峰赤岳や権現岳等鋭く切立つ峰々、下層部は東西約31km、南北約41kmと広大なスケールで裾野が広がる、言わば山岳リゾートと高原リゾートの2面を併せ持つところにある。ハケ岳南麓の豊かな自然環境と、南アルプス、瑞牆山等の眺望、さらに富士山が遠望される優れた景観を有するエリアであり、そして、圏域内を30分程度の時間で約1,000mの標高差を移動する“標高1,000mの立体空間”がある特徴的なエリアである。

また、ハケ岳周辺エリアは、黒曜石鉱山があったことから、石器や特徴的な土器や土偶が出土しており、多くの縄文遺跡が点在している。この遺跡群は「日本遺産」にも認められ、古くから住みやすく、豊かなエリアであったことの証となっている。

更には、周辺の山々から育まれる名水は、日本有数でも有数の名水の産地であり、ミネラルウォーターや名水を活用した農産物、加工品等が多くの産業を発展させ、人々を潤してきた。

現代社会においても、これら恵まれた自然環境や景観が、住みやすく、癒しの地として移住や2地域居住など、都会の人々が共感し、認められたエリアとなっており、これらが、ハケ岳観光圏のもつ一つの魅力・価値でもある。

首都圏から約2時間という距離でありながら、優れた自然環境や景観の中で滞在を楽しむことができる観光圏として、「標高差1,000mの癒しの立体空間」、「高原、山岳リゾート×青空・星空」、「リセット (Reset)、リフレッシュ (Refresh)、リボーン (Re・born)」をコンセプトに、エリア内に住む人々が、これら優れた自然環境等に自信と誇りを持ち、次世代に向け繋げていくことで、来訪者がハケ岳観光圏のコンセプトを感じ、「自分を取り戻す、自分に還る場所」となることを目指していく。

前述のコンセプトを実現するためには、時代の変化に反応し、恵まれた地域の資源を活かし多様な魅力を創造し、利用環境を整え、それらの情報を発信していく必要がある。

については、観光立国推進基本計画に記載された3つの戦略に基づき以下の基本方針を設定する。

(1) インバウンド回復戦略に基づく基本方針

令和3年10月に、新型コロナウイルスの影響による外国人観光客の水際対策が段階的に緩和されたことに伴い、山梨県においては、富士山エリアを中心に回復傾向がみられ、日本が外国人に旅行先として選ばれ続けている状況をみると、今後も更なる需要の拡大が見込まれる。

コロナ以前の入込客数以上の回復を期待するところであるが、これまでに取り組んできた「受入体制づくり」中心の取組から、外国に向けて、「攻めの観光誘客」を行う好機と捉えている。本圏域は、外国人に人気の日本の代表的な観光地である富士山エリアから1時間程度の距離にある観光地ながら、目的地として認知されていない。その要因としては、本圏域の魅力を、各国のターゲットへ向けた、エリア、コンセプト、コンテンツ等の情報発信が不足しており、圏域自治体、団体、関係事業者等が連携を図り、今までにない、実益に連結する外国人誘客のための積極的な情報発信をすることが重要である。

については、コロナ禍以前から、山梨県や富士山エリアへの外国人来訪者の多い「台湾」、「タイ」、「ベトナム」などアジア諸国に関係を築き、継続した情報発信を実施し、外国人観光客を増加させ、圏域内の消費拡大を図っていく。

また、世界的な潮流は、持続可能な社会を掲げた、サステイナブルな取り組みが観光地にも求められ、外国人観光客から選ばれる観光地となるには、「持続可能な観光地域づくり（JSTS-D）」を観光事業者のみならず、住民を巻き込んで推進する必要がある。これまで圏域内で実施してきた住み易さ等の指針となる「満足度調査」など継続的に実施し、住民の意見も取り入れつつ、歴史資源を活かしたコンテンツ造成やガストロノミーツーリズム、酒蔵ツーリズム、日本遺産の活用、国立公園の魅力向上など、サステイナブルなコンテンツの造成、改善を図っていく。

(2) 国内交流拡大戦略に基づく基本方針

新たな観光需要の拡大に向け、計画的な情報発信を進めていく。中部横断道、静岡ー六郷間の新高速道路の開通は、本圏域にとって、交流人口拡大にインパクト話題となっている。コロナ禍であっても東海エリアからの来訪者が急増しており、特に静岡県の三河地方や、東名高速道路を経由して中京圏からの観光入込が目立っている状況である。

これまで、鉄道や高速西東京方面や神奈川県を中心に、情報発信をしてきたが、静岡県への情報発信や観光誘客に注力し、新規の観光客獲得を図る。また、本圏域の観光誘客を戦略的かつ計画的に実施するため、デジタルマーケティングシステムを活用し、趣

味趣向、人流の動きを圏域として共有し、選択と集中を図り、地域全体のブランドコンセプトの浸透を図ることにより、観光誘客を図る。

コロナ禍のIT化の加速により、新たな仕事スタイルとして、地方においてワーキングスペースや、ワーケーションなどの取り組みが推進された。圏域内自治体においても、「富士見森のオフィス」や「道の駅小淵沢コワーキングスペース」等の整備が進められ、首都圏から多くの利用者が、新たな生活、仕事を始めている。コロナ禍以降、働き方が多様化し、遊び、仕事のスタイルが一変した中、移住、2拠点居住地として、引き続きニーズが高く、30歳、40歳の世代から、生活、仕事スタイルを変えたいと多くの人々が訪れている。これら新しい生活スタイルのニーズに応えることで、引き続き魅力あるエリアであり続ける必要がある。

これまでも、ユニバーサルツーリズム（障がい者向けのカヤックなど）や、八ヶ岳ならではの乗馬体験や、溪谷を活用したアクティビティコンテンツ、自然と一体となるウェルネスツーリズムの推進、サステナブルな旅と2次交通の課題解決に向けたとりくみとしてEバイクを活用したコンテンツやマウンテンタクシー（予約型乗合タクシー）の実施に取り組んでいる。これらコンテンツを継続的に発展させ、農業を軸にしたコンテンツやコワーキングスペースの活用などにより、滞在時間の延長を促すことで第2のふるさとづくりの促進が図られる。何度も地域に通う旅、帰る旅、ユニバーサルツーリズムの推進、2次交通手段の多様化などに取り組んでいく。

また、コロナ禍以降、山梨県内においては、近県からの教育旅行需要が高まっている。圏域の受入の特徴は、ペンション組合等の分泊による受入であり、他にはない魅力の発信に個々のオーナーが取り組んでいる。合宿の受入も含め、積極的に行う施策により、観光業の平準化に向けて取り組んでいく。

（3）高付加価値化で持続可能な観光地域づくり戦略に基づく基本方針

豊かな自然環境と美しい山岳景観を、将来にわたって維持していくためには、地域内の多様なステークホルダーにより、自然・文化等の保全に配慮した観光コンテンツを展開していくことに加え、来訪者がリピートすることに繋がるためにも、高い特別感を味わえる取り組みが求められる。

また、優れた景観が保全されることは、八ヶ岳観光圏の魅力ある地域を形成するには必要不可欠である。地域内外の人々の交流の機会が増えることにより、持続可能な観光地づくりも実現することと考える。

八ヶ岳観光圏では、来訪者と共に登山道整備を実施するコンテンツや、登山道と公共交通機関及び公共施設を結ぶ登山タクシーのほか、Eバイクや電動トクトックによる地域内周遊など、自然と共生する取り組みを、地域住民、企業、観光関連事業者、行政が一体となり取り組んでいる。

本圏域の宿泊施設は、バブル期以前の開発により整備されてきた施設が多く、廃墟等の景観への影響が課題となっている。観光関連事業者とも連携を深め、高付加価値化に

より経営の安定化に向けた取り組みを推進する。このような取り組みが地域内で共有され浸透することで、持続可能な観光地づくりがさらに横展開していくことを目指す。

4 観光圏整備事業の概要

八ヶ岳観光圏が目指すコンセプト「1000mの天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」を実現するために、戦略的に推進していくための施策の主なものは下記のとおりである。

(1) 宿泊サービスの改善及び向上

宿泊施設品質管理事業（サクラクオリティ）

実施主体：（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

事業概要：全国13観光圏が共通事業として取り組んでいる宿泊品質管理基準（サクラクオリティ）を推進する。

(2) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供

宿泊滞在プログラムの改善・滞在コンテンツの磨き上げ

実施主体：（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

事業概要：八ヶ岳観光圏の独自の観光資源を利用した滞在プログラムのモニタリング調査を引き続き行い、国内外からの来訪者のニーズあったプログラムへの改善を積極的に行う。

(3) 移動の利便性の向上

2次交通の利便性の向上事業

実施主体：（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

事業概要：訪日外国人来訪者の利便性の向上を図るため、2次交通における音声案内や車内表示、各種情報を多言語化する。また、2次交通利用者の滞在周遊観光の促進を図るため、各種サービスの開発に取り組む。

(4) 情報提供の充実強化

戦略的情報発信機能の構築と整備

実施主体：（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

事業概要：八ヶ岳DMSの各種システムの充実を図る。

(5) 地域住民が一体となった観光地域づくりの推進

観光地域づくり推進事業

実施主体：（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

事業概要：観光地域づくりマネージャーによるワークショップ等を通じ、地域住民への意識啓発・合意形成を図る。

(6) その他

持続可能な観光地経営推進事業

実施主体：(一社) ハヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日

事業概要：JSTS-D に沿った持続可能な観光地域づくりのため、サステナブルコンテンツの造成や観光地経営専門人材育成に取り組む。

4 協議会に関する資料等

(1) 協議会名称

八ヶ岳観光圏整備推進協議会

(2) 協議会構成員

令和5年3月20日現在

構成員	名称	役職名	代表者名	協議会の職名
県	山梨県	知 事	長崎幸太郎	顧 問
	長野県	知 事	阿部 守一	顧 問
市町村	山梨県北杜市	市 長	上村 英司	会 長
	長野県富士見町	町 長	名取 重治	副会長
	長野県原村	村 長	五味 武雄	副会長
観光団体	(一社)北杜市観光協会	代表理事	浅川 力三	
	富士見町観光協会	会 長	名取 重治	
	原村観光連盟	会 長	五味 武雄	
商工団体	北杜市商工会	会 長	小野 光一	
	富士見町商工会	会 長	名取 徹	
	原村商工会	会 長	牛山 徳康	
農業団体	梨北農業協同組合	組合長	小池 啓一	
	信州諏訪農業協同組合	組合長	小松 八郎	
交通関係	東日本旅客鉄道(株)八王子支社	支社長	内田 英志	
	東日本旅客鉄道(株)長野支社	支社長	松橋 賢一	
	山梨交通(株)	代表取締役	雨宮 正英	
	山梨峡北交通(株)	代表取締役	野口 正人	
	アルピコ交通(株)	代表取締役	小林 史成	
財団	(公財)キープ協会	理事長	元田 充隆	
社団	(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント	理事長	小林 昭治	代表者
	(公社)やまなし観光推進機構	理事長	仲田 道弘	
	(一社)富士見パノラマリゾート	理事長	名取 重治	
その他	NPO 法人 清里観光振興会	会 長	舩木 良	
	八ヶ岳南麓やとわれ支配人会	副会長	小塩 智也	
	富士見高原リゾート(株)	代表取締役	和田 正生	
	富士見高原ペ・ンジョンビレッジ	自治会長	高山 達朗	

(3) 八ヶ岳観光圏整備推進協議会規約

第1章 総則

(名称)

第1条 この協議会は、八ヶ岳観光圏整備推進協議会(以下「協議会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 協議会は、事務所を山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1に置く。

(目的)

第3条 協議会は、観光地相互間の連携によって観光圏を形成し、その観光の魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光客の来訪及び滞在を促進することを目的とする。

(事業)

第4条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 観光圏整備計画の策定に関する事業
- (2) 観光圏整備実施計画に関する事業
- (3) 観光圏の認知度向上及び観光客の誘致並びに満足度の向上のための事業
- (4) その他協議会が定める事業

第2章 構成員等

(協議会の構成員)

第5条 協議会の委員は、次の各号に掲げるものをもって組織する。

- (1) 山梨県
- (2) 長野県
- (3) 北杜市
- (4) 富士見町
- (5) 原村
- (6) 構成する市町村に所在する観光、交通、経済、農林水産畜産業に関する団体、事業者
- (7) その他協議会が必要と認める者

(届出)

第6条 構成員は、その氏名及び住所(構成員が団体の場合については、その名称、所在地及び代表者の氏名)に変更があったときは、遅滞なくその旨を届けなければならない。

第3章 運営等

(協議会の運営)

第7条 協議会の議決の方法は、多数決とし、可否同数の場合は議長の決するところに

よる。

2 協議会は、原則として公開とする。

3 協議会の事務局は、北杜市役所産業観光部観光課において処理する。

(役員)

第8条 協議会に次の役員を置く。

(1) 会長 1名

(2) 副会長 2名

(3) 監事 2名

2 会長は、北杜市長を充てる。

3 副会長は、富士見町長、原村長を充てる。

4 監事は、総会において、互選によって決定する。

5 本会に顧問を置くことができる。

(1) 顧問は、会長が委嘱する。

(役員の職務)

第9条 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

(ワーキング部会)

第10条 本会の円滑な運営を図るためワーキング部会を置く。

2 ワーキング部会は、山梨県、長野県、構成市町村のほか、会長が必要と認める団体、事業者等から選出し、会務執行上必要な調査、研究、企画立案を行う。

3 ワーキング部会は、会長が招集する。

4 ワーキング部会に座長を置く。

第4章 総会

(総会の種別)

第11条 協議会の総会は、通常総会および臨時総会とする。

2 総会は会長が招集し、議長となる。

3 通常総会は、毎年1回以上開催する。

4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに開催する。

(協議結果の取扱い)

第12条 協議会において協議が整った事項については、協議会の構成員はその協議の結果を尊重しなければならない。

(議事録)

第13条 総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2 議事録は、次の各号に掲げる事項を記載する。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 委員の現在数、当該総会に出席した委員数、当該総会に出席したと見なされる者の数及び当該総会に出席した委員の氏名
 - (3) 議案
 - (4) 議事の経過の概要及びその結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 3 議事録は、第2条の事務所に備え付けておかなければならない。

第5章 業務計画

(業務計画)

- 第14条 協議会の業務計画は、会長が作成し、業務開始前に総会の議決を得なければならない。
- 2 前項の業務計画を変更しようとする場合についても、同様とする。

第6章 会計

(事業年度)

- 第15条 協議会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(資金)

- 第16条 協議会の資金は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 国土交通省の補助金
- (2) 構成市町村からの負担金
- (3) その他の収入

(資金の取り扱い)

- 第17条 協議会の資金の取扱方法は、別途会計処理規程で定める。

(事務経費支弁の方法等)

- 第18条 協議会の事務に要する経費は、第16条の資金をもって充てる。

(収支予算)

- 第19条 協議会の収支予算は、事務局が作成し、事業開始前に総会の議決を得なければならない。

第7章 代表者

(代表者)

- 第20条 総会の決定に基づき業務を執行するために代表者を置く。

- 2 協議会の代表者は、次に掲げるものとする。

一般社団法人 八ヶ岳ツーリズムマネジメント 理事長

第8章 雑則

(細則)

第21条 この規約に定めるものの他、協議会の事務の運営上必要な細則は、会長が別に定める。

附則

- 1 この規約は、平成21年8月21日から施行する。
- 2 設立当初の事業年度は、第15条の規定にかかわらず、設立の日から平成22年3月31日までとする。
- 3 平成22年5月7日一部改正
- 4 平成23年6月3日一部改正
- 5 平成25年6月3日一部改正
- 6 平成29年7月1日一部改正
- 7 平成30年3月23日一部改正

5 その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

(1) 社会資本整備等との連携

本計画の前提となる社会資本整備等について以下に示す。

(社会資本整備総合交付金)

- 「活気あふれる地域社会の実現を目指した交通ネットワークの構築（Ⅱ期）」
 - ・ 交通ネットワークの充実による地域の産業競争力の強化や地域内外の交流・連携による地域の自立・活性化、地域の魅力・交通快適性を向上させる道路整備と併せて、地域の魅力を向上させる環境整備を行い、活力ある自立した地域経済社会を形成する。
 - ・ 計画期間：平成 31 年～令和 5 年度
- 「地域の特色を活かした観光・物流・交流の活発化に資する道づくり（3 期）」
 - ・ 人流・物流を支える道路ネットワークの整備を促進し、利便性の高い居住空間の整備により人口流出の抑制を図り、活力あるまちづくりを進める。
 - ・ 計画期間：令和 5～9 年

(防災・安全交付金)

- 「山梨県全域における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)」
 - ・ 流域が一体となって総合的な浸水災害対策を実施することにより、県民の安心安全の確保を図る。老朽化したダムの施設更新を実施することにより、各設備で発生している機器異常や故障を解消し適正な洪水調節や水の安定供給を図る。
 - ・ 計画期間：令和 2～6 年度
- 「山梨県における総合的な土砂災害対策の推進（防災・安全）（重点）」
 - ・ 近年の集中豪雨の増加等による土砂災害リスクの増大に対し、保全対象の特性に応じた優先順位を付ける中で効果的・効率的な整備を進めるとともに、防災に関する広報など総合的な対策を実施することにより、県民の安心安全の確保を図る。
 - ・ 計画期間：令和 2～6 年度
- 「災害時の安定した輸送機能の確保と拠点施設への道路整備（防災・安全）」
 - ・ 安定的な輸送機能の確保や災害時拠点（備蓄基地・総合病院等）への道路整備を行い、災害時における道路機能の強化を図る。
 - ・ 計画期間：令和 3～7 年度
- 「山梨県全域における住宅セーフティネットの構築と安全安心な住まい・まちづくり（防災・安全）（第 3 期）」
 - ・ 安定的な輸送機能の確保や災害時拠点（備蓄基地・総合病院等）への道路整備を行い、災害時における道路機能の強化を図る。

- ・ 計画期間：令和 3～7 年度
- 「通学路等の生活空間における安全・安心な道路環境の確保（Ⅱ期）（防災・安全）」
 - ・ 通学路等の生活空間において、安全・安心な歩行空間を確保し、道路利用者にとって安全・安心な道路環境を創造する。
 - ・ 計画期間：令和 4～8 年度
- 「道路利用者の誰もが快適で安全・安心な道路環境の確保（Ⅱ期）（防災・安全）」
 - ・ 誰もが安全・安心に利用できる道路空間の確保や緊急輸送道路等の斜面法面防災対策を計画的に実施し、道路利用者にとって安全・安心な道路環境を創造する。
 - ・ 計画期間：令和 5～9 年度
- 「長野県の豊かな自然と文化を生かした地域間連携の強化と広域観光の推進」
 - ・ 県内の豊かな自然・歴史・文化などの資源を活かした地域間の交流を担うための道路整備を推進し、あわせて、訪れやすい環境整備、道路交通の安全性の向上により誘客を促進する。
 - ・ 計画期間：平成 31～令和 5 年度
- 「富士山・南アルプス・八ヶ岳対流圏における山梨長野広域周遊観光活性化計画（重点③）」
 - ・ 山梨県と長野県では、首都圏広域地方計画の広域連携プロジェクトである「4－5．富士山・南アルプス・八ヶ岳対流圏の創出プロジェクト」に基づき、自然、歴史、文化や食をはじめとした多様な地域資源を有するエリアにおける基盤整備を実施することで、高速交通ネットワーク等を活用し、国際観光地を形成するとともに、地域資源を活かした広域周遊観光の推進を図る。
 - ・ 計画期間：令和 4～8 年度

（２）既存事業との効果的な連携

観光圏整備事業の実施に際しては、観光まちづくり関連の既存の主要な国庫補助事業等との効率的・効果的な連携を図るものとする。